

「パウロの宣教」 ～主の御心！！～

使18：5～11

「洗礼式」は私たちにとって何よりの喜びです。洗礼を受けるとは、イエス様を信じて主と認め、ついていくという告白の時です。洗礼を受けることによって私たちは永遠のいのちを手に入れることができるすごいお祝いですが、私たちはこのことに感動しているでしょうか。（使18：5～11）ここには、パウロの宣教の記事が書かれています。宣教というものを考えたとき、私たちが住んでいる日本はなかなか福音宣教が広まりません。日本の歴史、習慣、風習そういったものが背景にあるかもしれません。「・・・パウロはみことばを教えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちにはっきりと宣言した」（18：5）パウロは「イエスが救い主である」ということをハッキリと語ったとあります。私たちが実際にこのことを伝えたとき、①「そんなことあるのですか」と少しでも関心をもつ②真っ向から否定する③「よくわからない」といったような反応があると思います。このパウロの場合は記事を見てみると、「彼らが反抗して暴言を吐いた」（6）と書いています。私たちがもし人々に伝えて暴言を吐かれたら落ち込むかもしれません。しかし、パウロの反応は違います。暴言を吐いた者に対して着物を振り払い「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかけ。私には責任はない」と言っています。もちろん、パウロもそれで放っておいたわけではないと思いますが、その後のパウロを見てみても、落ち込むことなくずっとたゆまず語り続けています。そして多くの人々が神様を受け入れ救われました。一つの種が大きな実を結びんでいくのです。ある学者によると現在、中国では1日3万の人々が救われていると言われています。日本はどうでしょうか。「教会は伝道することによって存在する。伝道なくして教会なし」・・・教会の存在意義は、福音を伝えること、つまり「イエス・キリストこそ主なるキリストであり、この方以外に救われるものはない」ということを伝えるということなのです。だから①ハッキリと宣言！！イエスがキリストである。「教会に行くようになると・・・になるよ」といった類の話はするでしょう。でもイエスが救い主だとハッキリ言っているのでしょうか。サッカーのゴールをいくら勢いよく蹴ったとしてもゴールに入らなければ意味がありません。それと同じように私たちもどんなに勢いよく蹴っても外しては意味がありません。ゴールに詰めて福音が語れているのでしょうか。日本の1億2千万の人を救いに導こうと思うととても時間がかかるように思います。でも一人が一年に一人を救いに導けば、わずか27年で日本の全ての人々がクリスチャンになれるのです。教会が私たちだけが居心地の良い場所になってはいけません。教会はむしろ、これから信じる人に必要なのです。国の人口の30%の人々クリスチャンである韓国の教会で、まだ70%の人が救われていないことに目を向け、自分たちの責任だと悔い改めて祈っている人々がいます。これが真のクリスチャンです。私たちが御言葉に従い、種を蒔いていけば必ず実を残すことができます。私たちには限りがあります。「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くて悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい」（Ⅱテモ4：2）「神は言われます。「わたしは恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた」（Ⅱコリ6：2）「わたしたちは、わたしたちを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます」（ヨハ9：4）何も見えなくなる前にしなくてははいけません。（使4：12）与えるものになれば幸いになります。人のために私たちがいかされた時に自然と祝福されます。パウロはあらゆる境遇で満ち足りることを学んだと書いてあります。どんな状況にあっても神様はそれを超えて私たちに平安を与え、喜びを与えてくれるのです。そしてパウロはあらゆる境遇に処する秘訣を備えているとも書いてあります。私たちもその秘訣を神様に求めていきましょう。②この町には私の民が！！わたしが共にいる。わたしたちのまわりには、神様が愛している民がたくさんいます。だから遠慮しないでください。わたしたちには神様が共にいます。神様にはできないことはありません。この信仰を持ち、恐れず人々に与え、「イエス様が救い主である」ということを大胆に伝えていきましょう。（要約者：岩崎 祥誉）